

## 高齢者のアセスメント（課題整理）

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

高齢者の課題を的確に整理するに当たっては、問題点を多く捉え整理することから始まります。その内容によって、今すぐに支援・援助が必要なものがあるかもしれませんし、それは誰が受け持つことで適正にできるのかの視点が必要となってきます。

### （１）整理の仕方

ケアマネジャーとしての整理の仕方は、問題解決に向けて介護保険制度で対応するのが一番なのか、それとも他の制度、家族の支援・援助が必要なのかを検討することから始まります。

介護保険外のことについて、どこで整理するのが一番妥当なのかは、担当ケアマネジャーだけで判断できるものなのか、そうでないのかを検討し、いろんな専門家等の意見を聴くことも必要ですし、その視点が大切です。介護保険を中心に問題点が整理できたら、課題の整理に入ることになりますし、課題の緊急度も考慮することも必要です。

問題点、課題の整理にあたって、継続の場合であれば今行われているサービス、過去のサービスをどう捉えていくかが大切です。

- ①利用者の状況分析
- ②事業者のサービス実施における評価
- ③医療関係者の意見
- ④家族等の意見
- ⑤ケアマネジャーとしての評価

などを整理することになります。

### （２）施設における整理

施設における問題点及び課題の整理については、居宅関係のまとめ方と基本的には変わることはないと思いますが、サービスの提供及びその利用者的一天を概ね管理（見守り）している状態にあると思われしますので、職員間の認識及び情報共有の多さに影響を受けることになります。また、施設の設定状況、立地環境等によっても変わりますし、施設の種類によっても目的が異なりますので、そのことを理解した上で検討してください。

なお、職種間の意識をどう整理するかも大切ですので、的確にまとめることが必要となってきます。

評価の方法については、国等から通知が出されていますが、その内容は利用者の変化をどう捉えていくかです。

評価にあたっては、多くの参考文献が出されていますが、それを活用するのもしないのも、ケアマネジャーとしての考え方・能力によって変わってきます。

### (3) 利用者の捉え方

- ①ケアプランの内容
- ②アセスメントの内容
- ③サービス担当者会議の開催内容・その中での議論並びにまとめ方
- ④日常の訪問等
- ⑤日常の事業者等との調整

などによっても影響を受け変わってきますので、どこまで利用者を捉えるかをはっきりさせていくことが必要です。

ただし、利用者によっては、その内容は異なるので注意してください。

### (4) 個々の支援・援助

個々のケース支援・援助は、利用者の思い・行動、必要度、範囲、頻度が変わってきますから、ケアマネジャーとしての態度を明確に持つことが大切ですし、ストレスを少しでも減らしていく方法でもあります。

ケアマネジャーとして、次のことを実施することも大切です。

- ① 多くのことを知ることが必要ですが、覚えることには限度があります。その限度をカバーするために多くの参考文献が発行されていますので、その活用方法を自分なりに構成してください。
- ② 勉強会に出席し、知識を得ること、多くのケアマネジャーとの意見交換、悩みを話せる仲間づくりを行ってください。
- ③ 研修会への参加、専門家との意見交換などによって得た知識を、自分なりに活用できるように整理することが必要ですが、その方法に工夫を凝らしてください。